ふるさとなみえ科plus Q&A

浪江町立浪江小学校・津島小学校

Q1　「ふるさとなみえ科」を始めたきっかけと、意義について教えてください。

Ａ１　東日本大震災の１年後、平成２４年度から、地域の素材や人材を活用し郷土のよさを伝えるために「ふるさとなみえ科」を創設し、郷土を愛する心を育み、未来を創造的に生きぬくたくましい人間の育成を目指したいと考えました。

学習は主に浪江町の伝統や文化を体験したり、学んだりしています。そしてそれぞれ体験や取材したことについて「ふるさとなみえ子ども新聞」にまとめ、情報を発信しています。これらの学習が町の復興にも大いに活かされると考えています。

また、学校が地域の方々に積極的に関わっていくことで、子どもたちの学習が地域の方々をつなぐ役割を担い、ふるさとの未来を創造していく上で大切な役割を果たすものと考えています。

Q2　なぜ、「plus（プラス）」なのですか？

Ａ２　これまでの「ふるさとなみえ科」の取り組みでは、主に「浪江町の伝統や文化」についての学習を行ってきました。しかし震災から５年がたち浪江町での生活経験が少なく、浪江町の学校に通ったことのない子どもたちのみにになりました。そのため、学習対象を浪江町にplus（プラス）して、現在の学校再開地である二本松市を新たな対象に加えてそれぞれの「ひと・もの・こと」を大切にした学習を展開しています。また、双葉郡復興ビジョンや平成２６年度から双葉郡全体で取り組んでいる「ふるさと創造学」との整合性から見直しを図り、より探究的な学習活動を展開しています。

Q3　「ふるさとなみえ科」を通して子どもたちにどのような変化が見られますか？

Ａ３　避難をしてふるさとを離れていますが、ふるさとを誇りに思う心、地域の方々に対する思いやりの心が育っています。また、ふるさとの伝統や文化の魅力を実感し、ふるさと学習に意欲的に取り組みながら、自分の未来を見つめ、「今、自分には何ができるか」を考え始めています。

Q4　「ふるさとなみえ科」の学習は、次期学習指導要領とどのような関連性がありますか？

Ａ４　ふるさとと学校をつなぐ、本物との出会いを大切にした人々との交流による、課題設定の工夫により、新しい課題に出合った子どもたちは、「なぜ」という疑問や「こうしたい」「もっとこうなりたい」という願いが高まり、協働で課題解決に取り組みます。教師は子どもたちの願いをもとに、地域にゆかりのある方々と連携しながら、外部講師の招聘や、校外学習をコーディネートし、体験的な活動を通して探究的な学習を進めます。また、ふるさとの現状から将来を見据え、学校の教育目標の具現化のために育成すべき資質・能力を明確にし、学校と地域をつなぐ教育課程、指導計画を協働で作成しています。

この学習は、次期学習指導要領がめざしている「アクティブ・ラーニング」や「カリキュラム・マネジメント」そして「社会に開かれた教育課程」等と重なるものと考えています。

Q5　「まるごとふるさとなみえ博物館」とはどのようなものですか？

Ａ５　校舎を「まるごとふるさとなみえ博物館」ととらえ、常時「ふるさとなみえ科」を含めた学習状況が見渡せるような学習環境づくりを県立博物館の学芸員の指導を受けて進めています。全校児童の学習成果が共有でき、学習過程の可視化や効果的に相手に伝わるような発表・展示を工夫しています。

また、子どもたちは「子ども学芸員」として、見る側の立場に立った魅力ある博物館づくりを「ふるさとなみえ科」の一環として取り組んでいます。

※　これまでの「ふるさとなみえ科」の取り組みが認められ、浪江小学校・津島小学校は平成２８年度の「時事通信社教育奨励賞努力賞」を受賞しました。

双葉郡教育復興ビジョン「ふるさと創造学」

ふるさとなみえ科plus

◇　ふるさとなみえ科の目標

浪江の　　子どもたちの
浪江町民を　つなげる力で
浪江の　　未 来 を 拓 く

［地域の人材］

［地域の伝統文化（二本松市）］

［地域の伝統文化（浪江町）］

［地域おこしの団体］

［復興なみえ町十日市祭
中学生との合同太鼓］

［浪江町役場（二本松事務所）
での なみえっ子カルタ贈呈式］

［仮設住宅訪問：カルタ交流］

［運動会：地域との絆づくり］

浪江町立浪江小学校・津島小学校

探究の学習過程

地域に触れて、感じる、考える → 地域を学び、発信する → 地域の夢・地域の未来をつなぐ

わたしの町の「食」自まんⅠ・Ⅱ
～くらべよう　つながりを考えて～
３・４年

浪江の人々との交流・学習成果の発信
○ふるさとなみえ交流会　○十日市祭　他

伝統文化にふれようⅠ・Ⅱ
～くらべよう　つながりを考えて～
５・６年

【課題をつかむ】
○　ふるさとの自然や伝統文化を体験したり、地域の人から話を聞いたりして、興味関心・疑問を持つ。

【情報を集める】
○　学習テーマに関する団体や施設を訪問し、インタビューをする。
○　地域の専門家の話を聞く。

【整理・分析する】
○　体験活動を通してわかったことや集めた情報を振り分けたり、序列を付けたりする。
○　集めた情報をマップや図等で分類・整理・分析する。

【まとめ・表現】
○　作文や新聞等にまとめ表現する。
○　まとめた内容を地域の人々に報告・発信する。

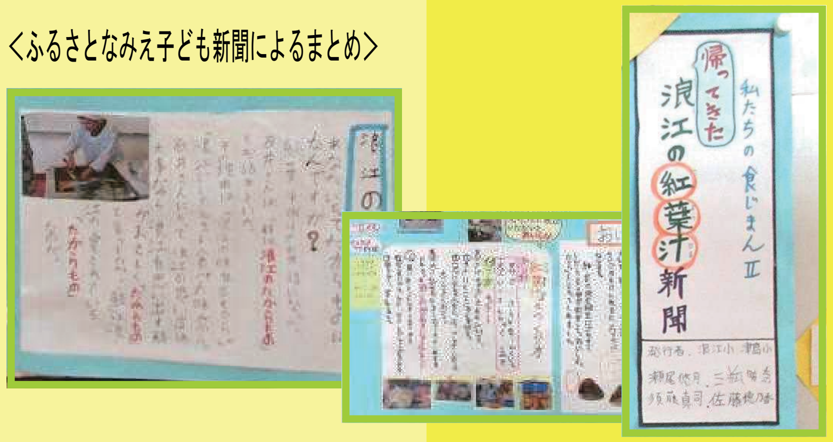
３・４年

Ⅰ「紅葉汁（浪江町）」　Ⅱ「ざくざく（二本松市）」

＜講師を招いての紅葉汁作り・インタビュー＞　＜講師を招いてのざくざく作り・TV電話でのインタビュー＞

＜思考ツールの活用＞　＜分類・比較＞

＜ふるさとなみえ子ども新聞によるまとめ＞



交流・体験

成果発信

５・６年

Ⅰ「大堀相馬焼（浪江町）」　Ⅱ「二本松家具（二本松市）」

＜大堀相馬焼の工房での体験・インタビュー＞　＜二本松の家具店での体験・インタビュー＞

＜思考ツールの活用＞　＜分類・比較＞

＜ふるさとなみえ子ども新聞によるまとめ＞

【学習を支える柱】　・協同的な学び　・豊かな体験活動　・多様な言語活動　⇔　各教科との関連　・　まるごとふるさとなみえ博物館